

View from Down Under

文・ハイランド真理子

写真・ハイランド・サラブレッド・サービス

イングリス・イースター・セール・プレビュー

期待の持てる今年のセール

イングリス&サン社は、1867年に、農作物の販売会社として始まった。

それから、家畜、馬、また農業機械や、車などを扱うようになり、1906年に、ランドイック競馬場近くのニューマーケットにセリ場を作る。一昨年、このイングリス&サン社の屋台骨だったジョン・イングリス氏が亡くなり、昨年、その甥であり、プリンシパル・オークショニア（セリ鑑定人）でもあったレジ・イングリス社長が辞め、新しい社長マーク・ウェブスター氏が就任した。ウェブスター氏は、まだ39歳の若い社長である。しかし、世界的な複合メディア企業のニュースコーポレーション社でエグゼクティブを務めており、マスコミとビジネス経験を共に持つなかなか稀な人材とみた。就任後、直ぐに、シドニーとメルボルンでイングリスセールの取引馬が指定レースで優勝すると、特別ボーナスがもらえるという新しいマーケティング案や、インターネットビディング（インターネット競り）を打ち出し、伝統のイングリス&サン社に新風を吹き込んでいる。

名前のようにイングリス・イースター・セールは、イースター（復活祭）の時期に行われるが、昨年の馬インフルエンザの影響を受けて、今年は、イースター・イヤリング・セールが、実際のイースターではなく、4月20日からの4日間に渡って行われることとなった。昨年の馬インフルエンザ

のために恐らく、今年のセリは2割から3割は安くなるのではないかとされていたが、イングリス社が、3月にメルボルンで開催したプレミアイヤリングセールの結果を見る限り、下がるどころか逆に価格はアップしている。例えば、プレミアイヤリングセールの総売り上げは3900万ドル（約39億円）で、昨年の売り上げの56%アップ、平均価格も8万4千ドルで、25.7%のアップ、更に、このセリの最高価格の記録を破る75万ドルの産駒も出て、生産者もホットと胸をなでおろした。オーストラリアのサラブレッド生産界の底力だろうか。

多くの産駒を上場するリダウツチョイス

さて、ご存知のように世界的なデインヒルブームは、オーストラリアから始まったが、そのデインヒルの息子たちも種牡馬として大活躍しており、今回のイースターセールの上場馬中323頭が、いわゆるデインヒルの孫たちだ。デインヒル血統が、いかにオーストラリアの競馬と生産に大きな影響を与えているかが、分かってもらえるかも知れない。

中でも、最も成功していると言われるのがリダウツチョイスである。その産駒は今回のイースターセールに、大挙75頭が上場された。ニューサウスウェールズ州のエジンバラパーク牧場からは、世界最強のスプリンターだったサイレントウィットネスの半妹、マカイビーディーヴァの半妹、錚々たる血統のイヤリングが出されている。また、現在はグローバル

スプリントチャレンジにも組み込まれているライトニングステーキ（GI）の優勝馬であるレジメンタルギャルが母となり、最初に産んだ牝駒も出されている。このように、今年のリダウツチョイスの1歳牝馬産駒には魅力のあるものが多い。

オーストラリアでは、よほど血統が良くないと去勢をしてしまうが、



リーディング
万年2位の汚
名を返上でき
るか、エンコ
スタデラゴ

最近、オーストラリア出身の種牡馬が活躍しているために、施術せず、その

のまま競走させる例が増えてきた。したがって、リダウツチョイスの息子たちも種牡馬になってきている。ビクトリア州のエライザパーク牧場に繋養されている、ゴッズオウンは、今年はまだイヤリングが出ていないが、種牡馬として大変人気を呼んでいる。今回のセリには、そのゴッズオウンの全弟が出された。また、リダウツチョイスの息子で、マジックミリオンズ2歳クラシックを勝ったナットアシングルダウトの産駒が、ファーストシーズンサイアーとして12頭上場されている。リダウツチョイス産駒に手が届かないバイヤーに良い代替馬になるかも知れない。

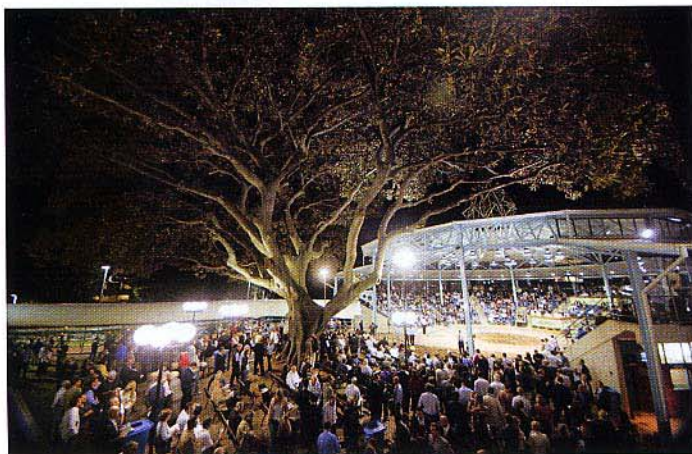
注目はエクシードアンドエクセル

しかし、何と言っても、現在最も注目されているデインヒルの息子は、エクシードアンドエクセルである。ダーレーオーストラリアで繋養されているこの種牡馬は、現在、2歳リーディングサイアーの2番手につけている。種付け料は、わずか5万5千ドル。現在、投資額に対して最も効率のいい馬だと言われている。エクシードアンドエクセルのイヤリングは、ニュージーランドの2歳チャンピオンだったワンアンダーを母に持つ牝馬、安田記念を制したフェアリーキングブローンの半弟など33頭が上場されている。

今年は、新しいデインヒルの種牡馬、アルマハールにも関心が高い。オーストラリアギニーズ（GI）の優勝馬だが、祖母がオーストラリアを代表する名繁殖牝馬ダグシングショーで、ハリケンスカイやウマティラ、またリダウツチョイスなどオーストラリアのチャンピオン馬が近親にいる超良血の種牡馬だ。このアルマハールは初年度に180頭も種付けをして、今回、この初年度のイヤリング21頭が出されている。

頂上を狙うエンコスタデラゴ

“オールウェイズ・ブライズメイズ、という英語の表現がある。“いつも花嫁の付添い人”。つまり、2位とか2着になっているという意味なのだが、エンコスタデラゴ（フェアリーキング）はこの表現で呼ばれていた。それが、現在総獲得賞金額が637万



昨年のイングリス・イースター・セール



オーストラリアで成功を収めるハゾネット

ルとなり、総賞金が514万ドルのザビールを抜いて、オーストラリアのジェネラルサイアー（総合）の1位の座についている。今シーズンは7月末までなので、このままずっとザビールの上をいく可能性は高い。最近ではG Iのオーストラリアンカップで、産駒のシルミオーネとプリンセスクーがワンツーを達成しており、シーズン後半も引き続き活躍しそうだ。

今年のイースターセールには、エンコスタデラゴ産駒が、62頭上場された。チャンピオン3歳牝馬アリンギの全弟、G I ゴールデンスリッパーの優勝馬バーストの牡馬、同じくゴールデンスリッパーの優勝馬キャラウェイギャルの牡馬、デインヒル産駒のG I 勝ち馬アクアダモールの半弟、種牡馬にもなっているチャンピオンプリンターであるベルエスプリの半弟を上場。他にも、クインズランドギニーズ勝ち馬ウイニングベル（父ザビール）の牡馬、やはり重賞レース勝ち馬のウエージャー（父フライングスパ）の初仔の牝馬が出ていて、今年のイヤリングには、例年にない高値がつくかも知れない。

ハゾネットとザ・ロック

総合サイアーランキングで、今、サプライズ現象を起こしているのは、ハゾネットだ。ハゾネットは、オーストラリアには珍しいミスターブロスベクター血統。アメリカで7戦して2勝、準重賞レースで入着しただけの馬だったが、母親はなかなかのもので、ブリーダーズカップ・ディスタフを含めたG Iの3勝馬。牝系には、有名なアメリカのチャンピオン馬がずらりと並ぶ。それにしても、15ハンド（約150cm）しかない小柄な馬を、オーストラリアに適していると睨んで連れてきた、アローフィールド牧場のジョン・マサラ氏の慧眼には頭が下がる。もっとも、マサラ氏は、デインヒルをオーストラリアに連れてきた立役者でもあり、それを考えるとハゾネットの成功も、そう不思議ではないかも知れない。

ハゾネットは、日本では「ヒューソネット」と呼ばれているらしいが、オーストラリアでは「ハゾネット」と発音している。チリでワイルドスピリット、アルゼンチン



ブルーダイヤモンドSを勝ったハゾネット産駒のリアーン

でハッソンなど数々のチャンピオン馬を出しているが、オーストラリアでも、今、ウィークエンドハスラーや、今年のブルーダイヤモンドステークスを勝ったリアーンなど、その産駒が大活躍している。総合リーディングサイアーのランキングでは、ハゾネットは、リダウツチョイスを抜いて4位に入った。今回はわずか9頭の上場だが、前述したリアーンの全妹もいてかなりの注目が集まるに違いない。

ハゾネットは現在セカンドシーズンサイアーのリーディングだが、そのランキング2位につけているのはクールモア牧場のシャトルスタリオン、ロックオブジブラルタルである。日本でも昨年種付けをしており、人気だったと聞いている。このロックオブジブラルタルもデインヒルの息子。イースターセールには、2003年のチャンピオン2歳馬になったハズナの牡馬や、G Iの優勝馬ディヴァインマドンナの半妹など36頭が上場されている。

レッドランサムとファストネットロック

例年のことだが、このイースターセールのお馴染みには吉田勝己氏がいる。同氏は、過去にこのセールで、レッドランサム産駒のロックドゥキャンブを購入した。更に、先日、日本で妻みのある勝ち方をしたリヴザルトも落札している。今年、レッドランサム産駒は11頭出された。G IIIのSAJCスプリングステークスを勝ったザボーネの半妹や、G I トゥーラックハンデを勝ったレッドダズラーの全弟、また、最近、シドニーでG I チッピングノートンステークスを



期待されるファーストシーズンサイアー。上はファストネットロック、右はチャージフォワード

勝ったカジノプリンスの近親馬も上場されている。勝己氏は、今年もまたレッドランサム産駒を購入するのだろうか。

今回のセリに出されているファーストシーズンサイアーで人気が出そうなのは、ファストネットロック（51頭上場）、エルヴストローム（12頭）、チャージフォワード（12頭）、そしてシャマダール。非常に多くの産駒を上場させたファストネットロックは、ロイヤルアカデミーII産駒の重賞レース勝ち馬ピカデリーサーカスを母に持ち、自身はライトニングステークスを勝っている。初年度は208頭もの種付けをしているので、その人気の程が分かるというもの。上場された産駒は、キャセイパシフィック香港スプリントの優勝馬セイクレッドキングダムの半弟や、チャンピオン3歳馬のレーシングトゥウインの半弟などで、これらは恐らく種牡馬候補として高く競り落とされることだろう。

話題を集めるC・レアー導師

今年は、4月19日にシドニーのオータムを飾るSTCゴールドスリッパーが行われ、続いてイースター・イヤリング・セール（パート1・パート2）が、その後27日からクラシックセッション、5月1日から2日までイースター・ブルードメアセールが開催される予定だ。

ところで、2006年にシドニーのイースターセールで、リダウツチョイスの牡馬を300万円で競り落とし、更に、総額560万ドルの買い物をした南アフリカの調教師チャールズ・レアー導師が、最近、メルボルンに厩舎を開業すると発表した。南アフリカからは、既に、同国でリーディングトレーナーだったデビッド・ペイン師がシドニーで開業しているが、今回は彼に続いて2人目である。そのチャールズ・レアー導師は、今年のイースターセールにやって来るのだろうか。来るとすれば、どれぐらいの買物をするのだろうか。落札した馬たちは、オーストラリアで走るのだろうか。南アフリカのクライアントのものなのだろうか。レアー導師が来るのかどうかは、この記事を書いている時点では分からないが、もし来たら、オーストラリアのマスコミの注目をかなり集めそうだ。（データは3月20日現在）

